

2023年度 第1回 予防医療科学センター倫理委員会 議事録

1. 日 時 2023年7月11日(火) 午後6時00分～午後6時14分
2. 場 所 医療技術学部棟2階 講義室3
3. 出席者 森谷 満 教授、舞田健夫 教授、宮永尊文 弁護士、長谷佳子 看護部長、
梶美奈子 歯科衛生士長、三浦清志 医療管理部長、陣内康行 病院事務課係長
(以上7名)
- (事務担当) 国見明美病院事務課
4. 欠席者 遠藤 泰 教授、磯部太一 講師
5. 議 長 森谷 満 教授
6. 議 事

森谷委員長より、予防医療科学センター倫理委員会内規5条に定める成立要件「委員の3分の2以上(6名以上)の出席があり、第3号委員(宮永委員)の出席があること」を満たしているとの確認があり、委員会を開催した。

森谷委員長より、本日の議案は審議事項1件であるとの説明があった。

<審議事項>

1. 経鼻気管挿管に伴う鼻孔周囲の医療関連機器圧迫創傷の予防法についての比較研究
実施責任者 歯科麻酔科 講師 吉本 裕代
受付番号 第2023_008号

吉本講師より、資料に基づき、「経鼻気管挿管に伴う鼻孔周囲の医療関連機器圧迫創傷の予防法についての比較研究」について、説明があった。

舞田委員よりワセリンを塗る量について質問があり、及川薬剤部主任と相談し、チューブから絞り出す長さや重さを計って一定にするとの回答があった。

宮永委員よりワセリンの効能について、またアレルギー反応の有無について質問があった。これに対し、褥瘡の予防や、皮膚炎の炎症を保護するのに有用であること、アレルギーの発症は非常に少ないとの回答があった。

森谷委員長よりワセリンの使用は一般的であるのかとの質問があり、鼻腔内での使用状況の調査は行っていないが、皮膚の摩擦軽減にはよく用いられるものであるとの回答があった。

梶委員よりワセリンの使用は今回初めてとなるのかとの質問には、すでに数例実施したところ、特段の問題はなかったこと、さらに比較対象となる緩衝材「まもろーる」の仕様について説明があり、性質は全く異なるものとの説明があった。

質疑の後、審議に入った。

本院において、当該研究を行うことの可否について、挙手による採決を求め、全員の了承を確認した。

以上、議事の過程及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、議長捺印をする。

2023年7月11日

委員長 森谷 満